

# 令和7年度第3回研修会

食肉レポート

## 最近の食肉をめぐる状況

～ 物価上昇下の食肉販売の状況 ～

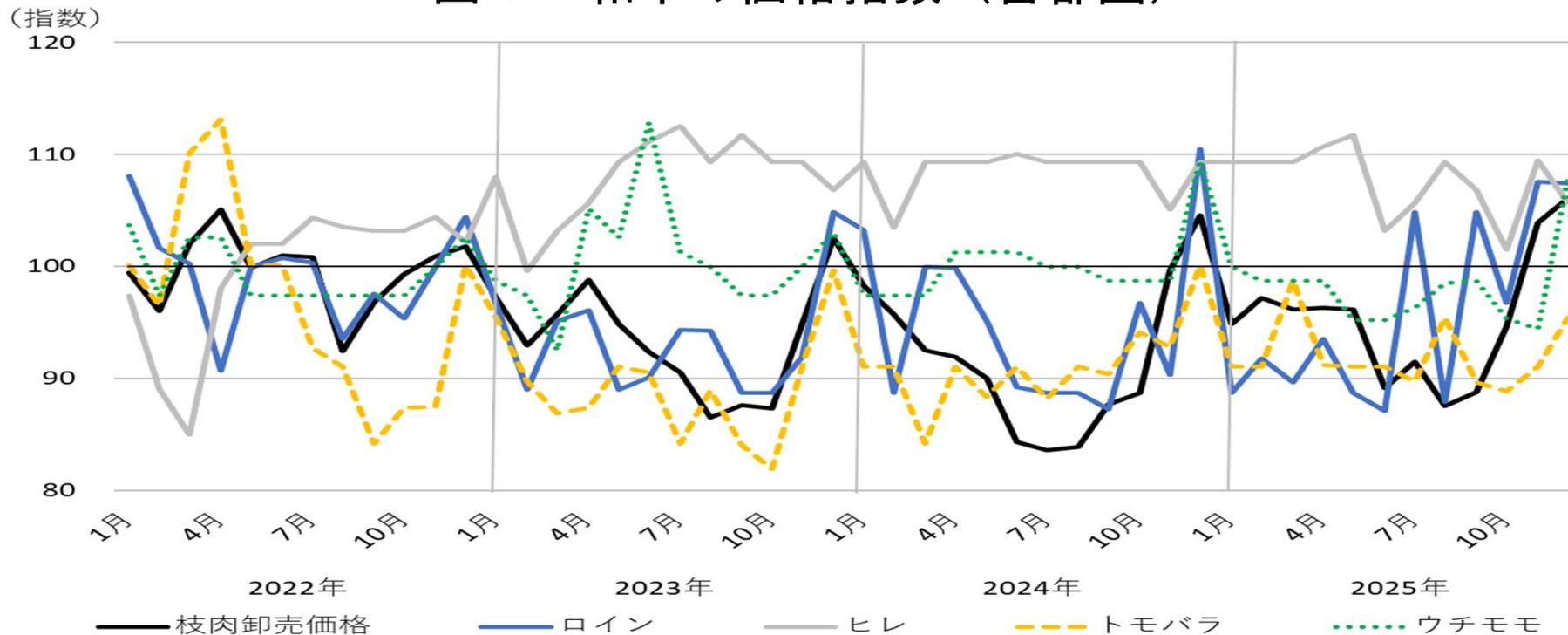
2026年3月5日（木）

公益財団法人 日本食肉流通センター

情報部長 安藤 松太郎

# 1 和牛肉価格の動向

図1 和牛の価格指数（首都圏）



注1.部分肉の価格指数＝各月の重量中央値/2022年の重量中央値×100

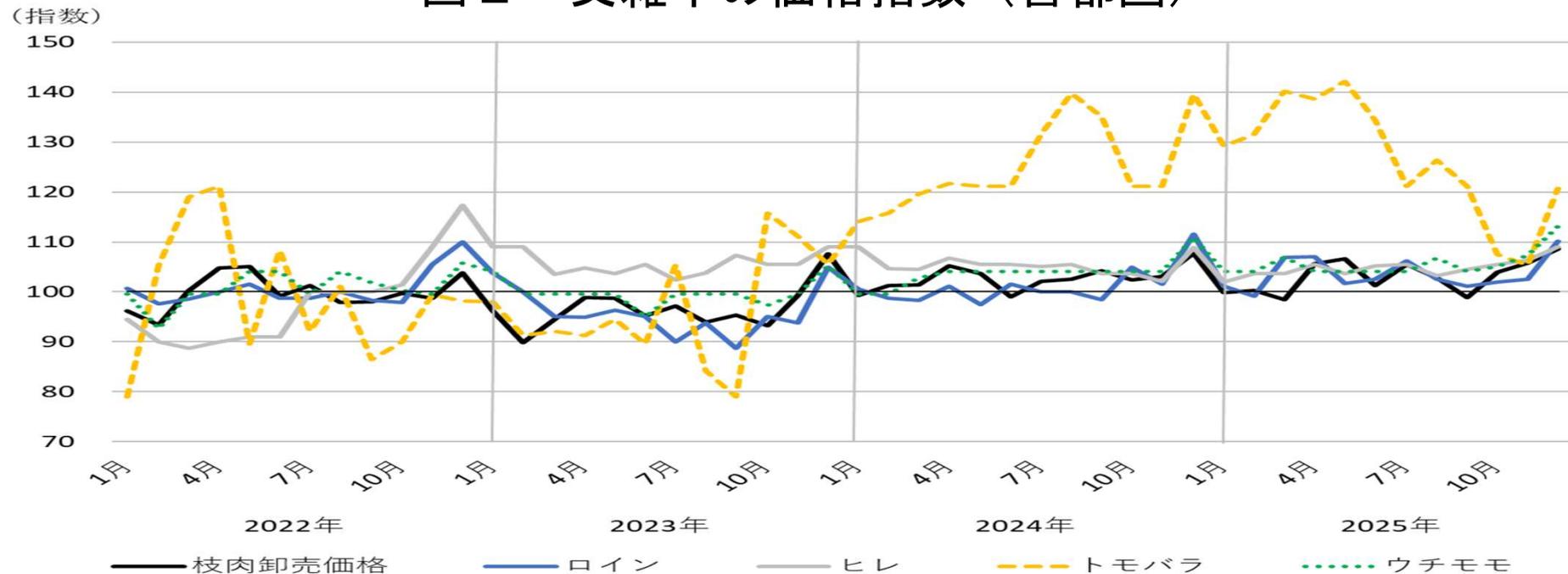
2.枝肉卸売価格の価格指数＝各月の平均価格/2022年の平均価格×100

3.枝肉卸売価格は、農林水産省「畜産物流通統計」東京市場の和牛去勢A4である。

- 枝肉価格指数は、消費者の生活防衛意識の高まりにより低下傾向で推移したが、2025年は前年を上回って推移。
- ロインは、高級な部位であるため、消費者の節約志向の影響を受けて枝肉と同様に推移。
- ヒレは、外食需要の回復により、2022年後半からは価格指数が100を超えて推移。

## 2 交雑牛肉価格の動向

図2 交雑牛の価格指数（首都圏）



注1.部分肉の価格指数=各月の重量中央値/2022年の重量中央値×100

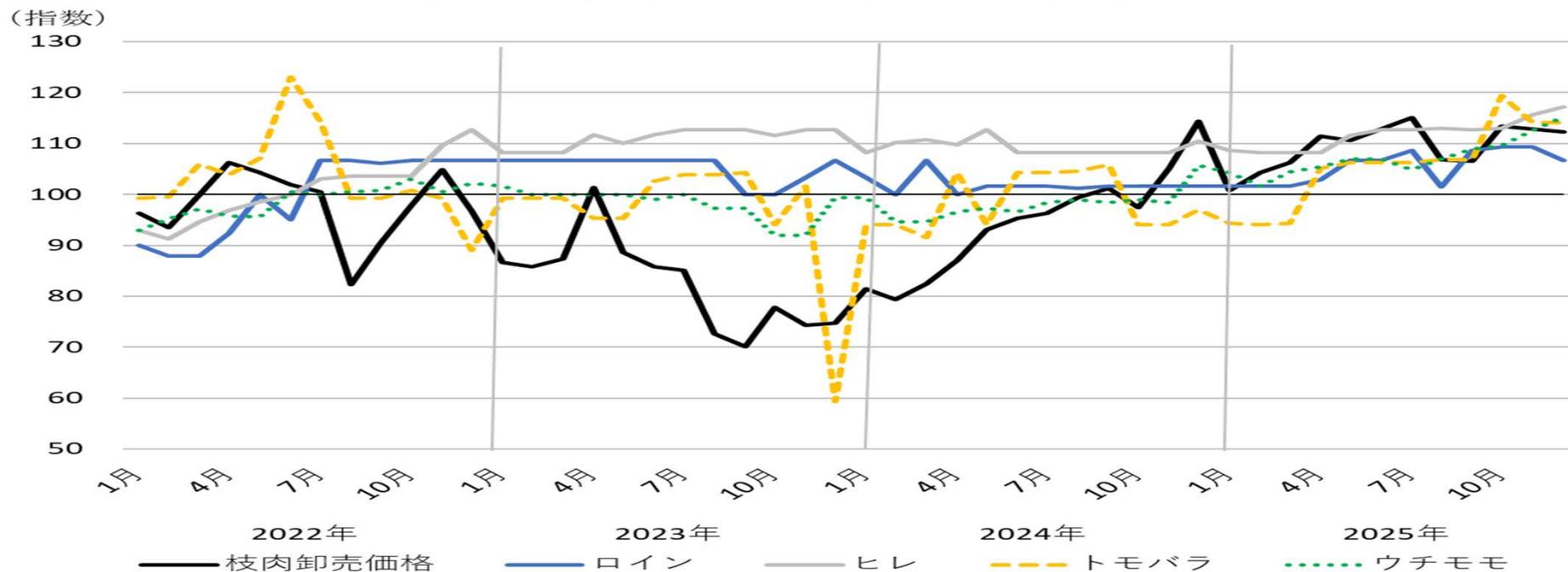
注2.枝肉卸売価格の価格指数=各月の平均価格/2022年の平均価格×100

注3.枝肉卸売価格は、農林水産省「畜産物流通統計」東京市場の交雑牛去勢B3である。

- 枝肉価格指数は、2023年に入ると100を割って推移したが、和牛と対照的に同年末から回復し100を超えて推移。
- ロインは、和牛に比べて手頃な価格帯なことから需要は手堅く、2024年以降は指数が100を上回る水準に回復して推移。
- トモバラは、輸入トモバラの輸入量の減少や価格上昇の影響もあって引合いが強まり、指数は2023年10月以降大きく上昇。

### 3 乳牛肉価格の動向

図3 乳牛の価格指数（首都圏）



注1.部分肉の価格指数=各月の重量中央値/2022年の重量中央値×100

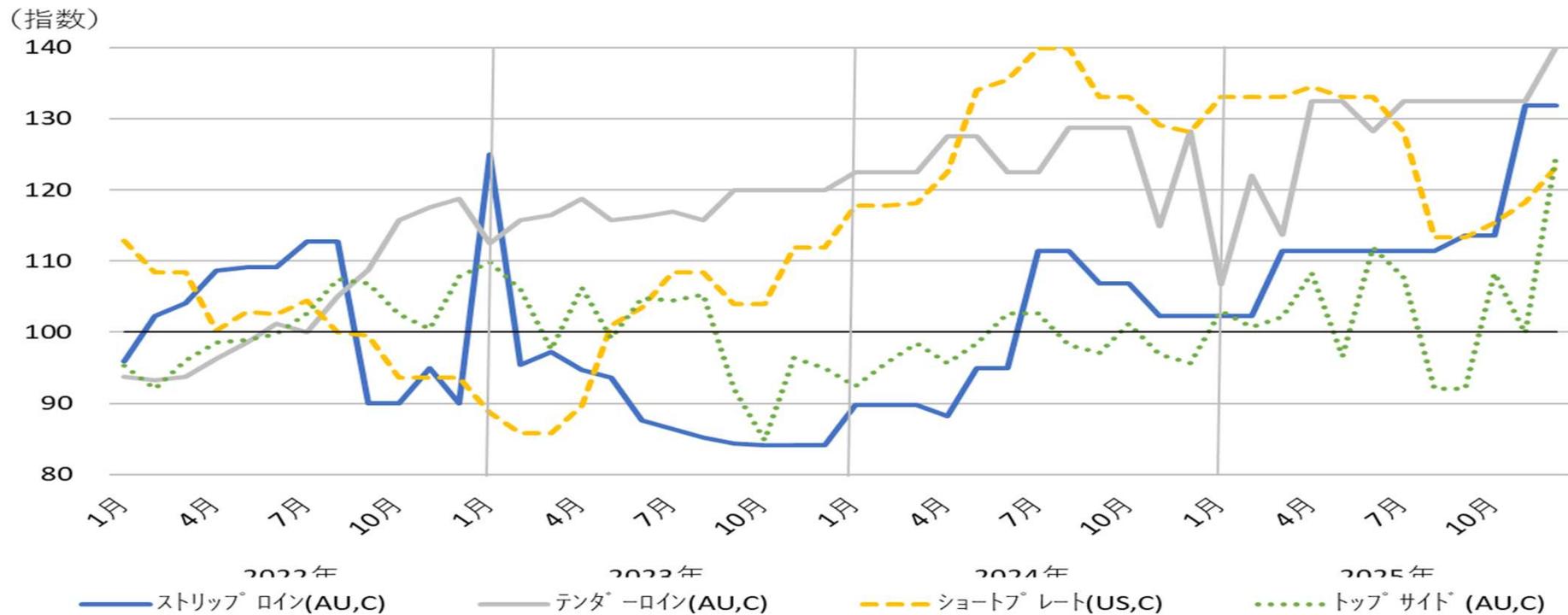
注2.枝肉卸売価格の価格指数=各月の平均価格/2022年の平均価格×100

注3.枝肉卸売価格は、農林水産省「畜産物流通統計」東京市場の乳牛去勢B2である。

- 枝肉価格指数は、2023年後半には大きく落ち込んだものの、2024年になると回復。
- ロインは、他の畜種に比べ手頃な価格帯であることから輸入品の代替となり、2022年半ばから需要が戻って上昇し、指数は100を超えて安定して推移。
- ウチモモは、赤身を特徴とし価格は比較的安く、安定した需要を反映して2025年11月以降、指数は110を超えて推移。

## 4 輸入牛肉価格の動向

図4 輸入牛肉の価格指数（首都圏）

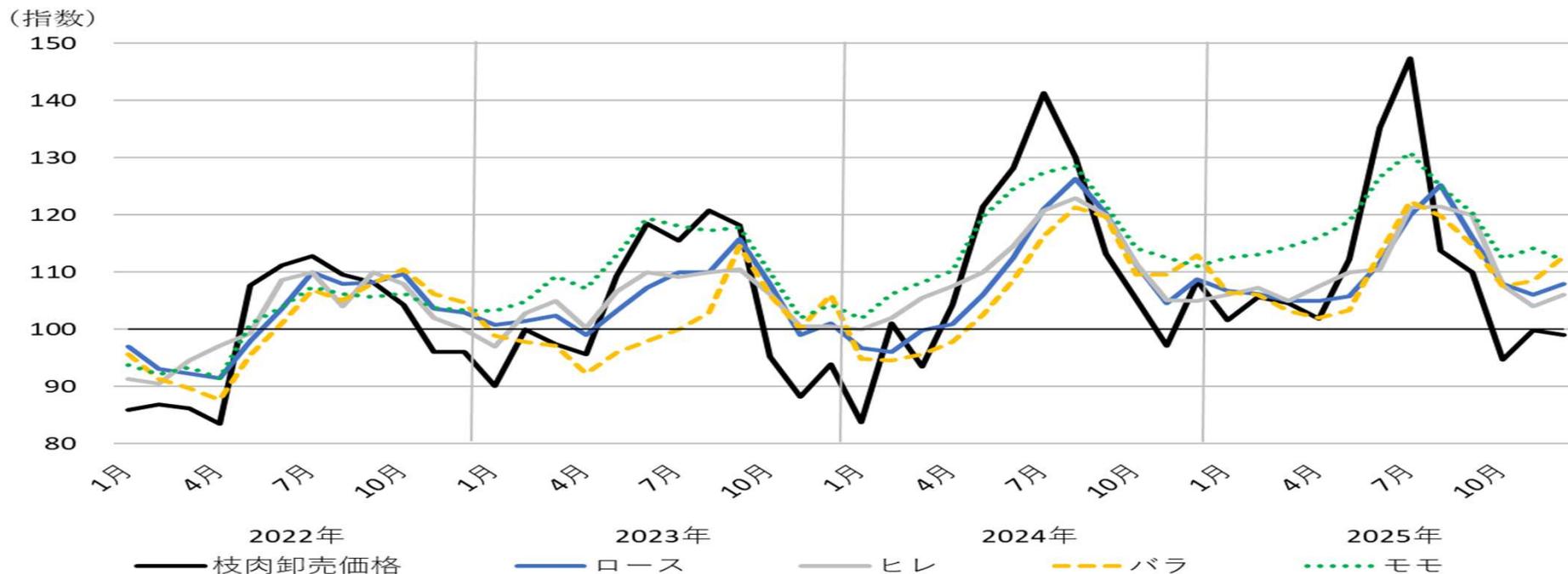


注.部分肉の価格指数=各月の重量中央値/2022年の重量中央値×100

- 為替の円安傾向、現地価格の高騰等による輸入牛肉価格の上昇に伴って、主な部位の価格も上昇。
- 2024年7月、8月にはトモバラ（米国産チルド・ショートプレート）、2025年12月にはヒレ（豪州産チルド・テンダーロイン）の指数が140.0に到達。

## 5 国産豚肉価格の動向

図5 国産豚肉の価格指数（首都圏）



注1.部分肉の価格指数＝各月の重量中央値/2022年の重量中央値×100

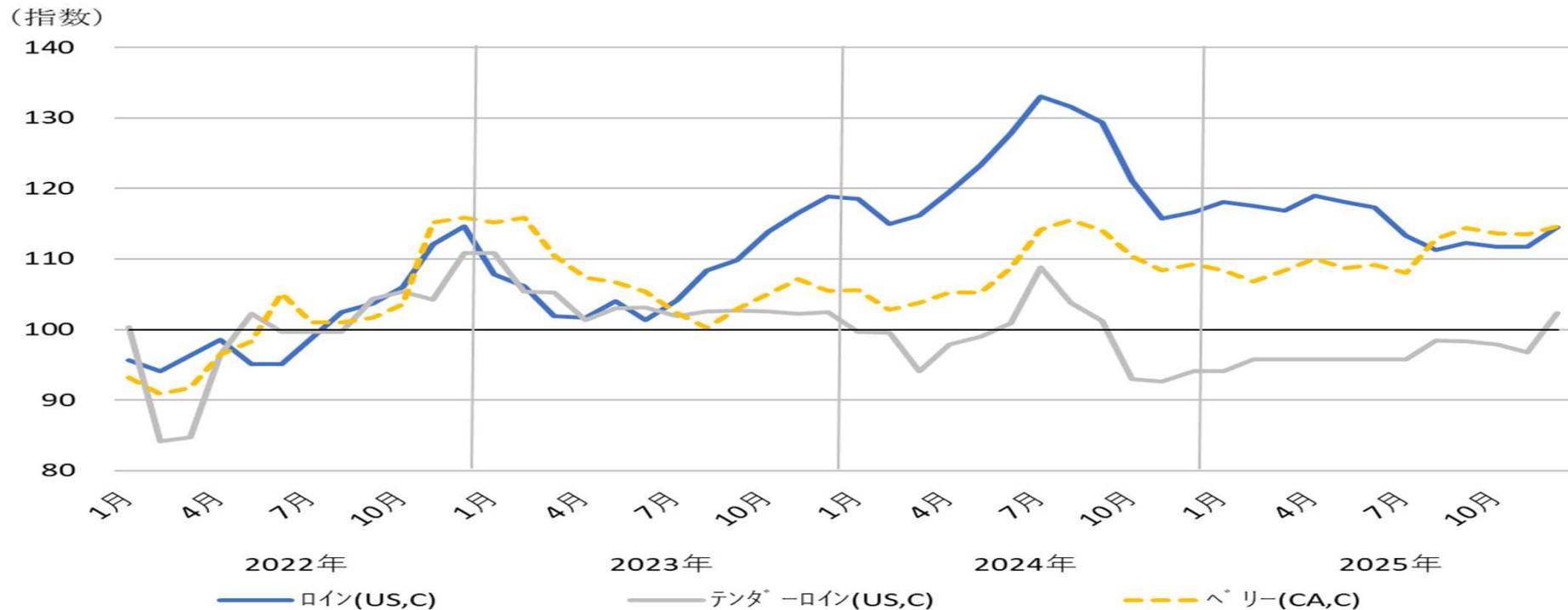
2.枝肉卸売価格の価格指数＝各月の平均価格/2022年の平均価格×100

3.枝肉卸売価格は、農林水産省「畜産物流通統計」東京市場の上である。

- 枝肉価格は、輸入豚肉の価格上昇や国内の出荷頭数が減少により、夏場に高値となるという季節変動の振れ幅を大きくしながら上昇傾向で推移し、2025年7月には最高価格を更新（指数147.4、価格867円/kg）。
- 部分肉の価格指数も枝肉と同様に推移。
- 部位による需給動向の違いを反映して、2023年に入るとモモの価格指数がロースを上回って推移。

## 6 輸入豚肉価格の動向

図6 輸入豚肉の価格指数（首都圏）

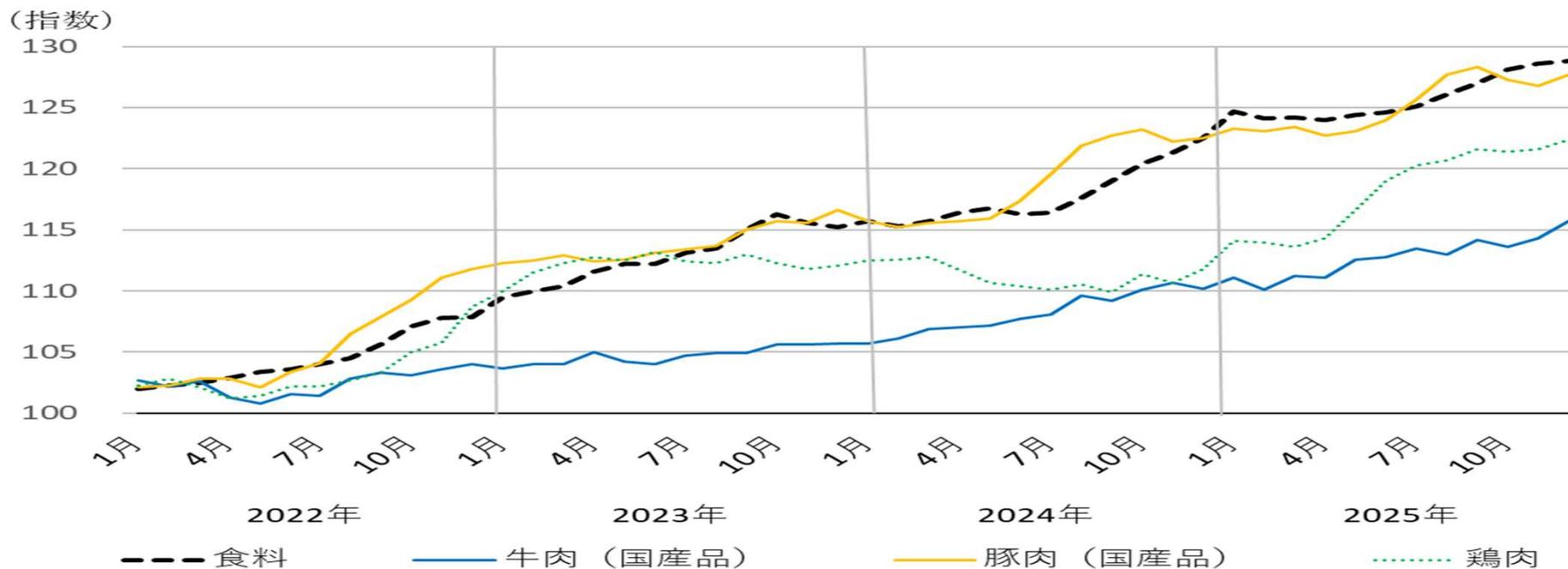


注.部分肉の価格指数=各月の重量中央値/2022年の重量中央値×100

- 輸入豚肉も輸入牛肉と同様に、為替の円安傾向、現地価格の高騰等の中で、主な部位の価格も上昇。
- 2024年7月には、急激な円安により大きく価格上昇。その後、価格は落ち着くが、ロース（米国産チルド・ロイン）及びバラ（カナダ産チルド・ベリー）は、100を超えて高水準で推移。

## 7 食肉関連の消費者物価指数の動向

図7 食肉の消費者物価指数

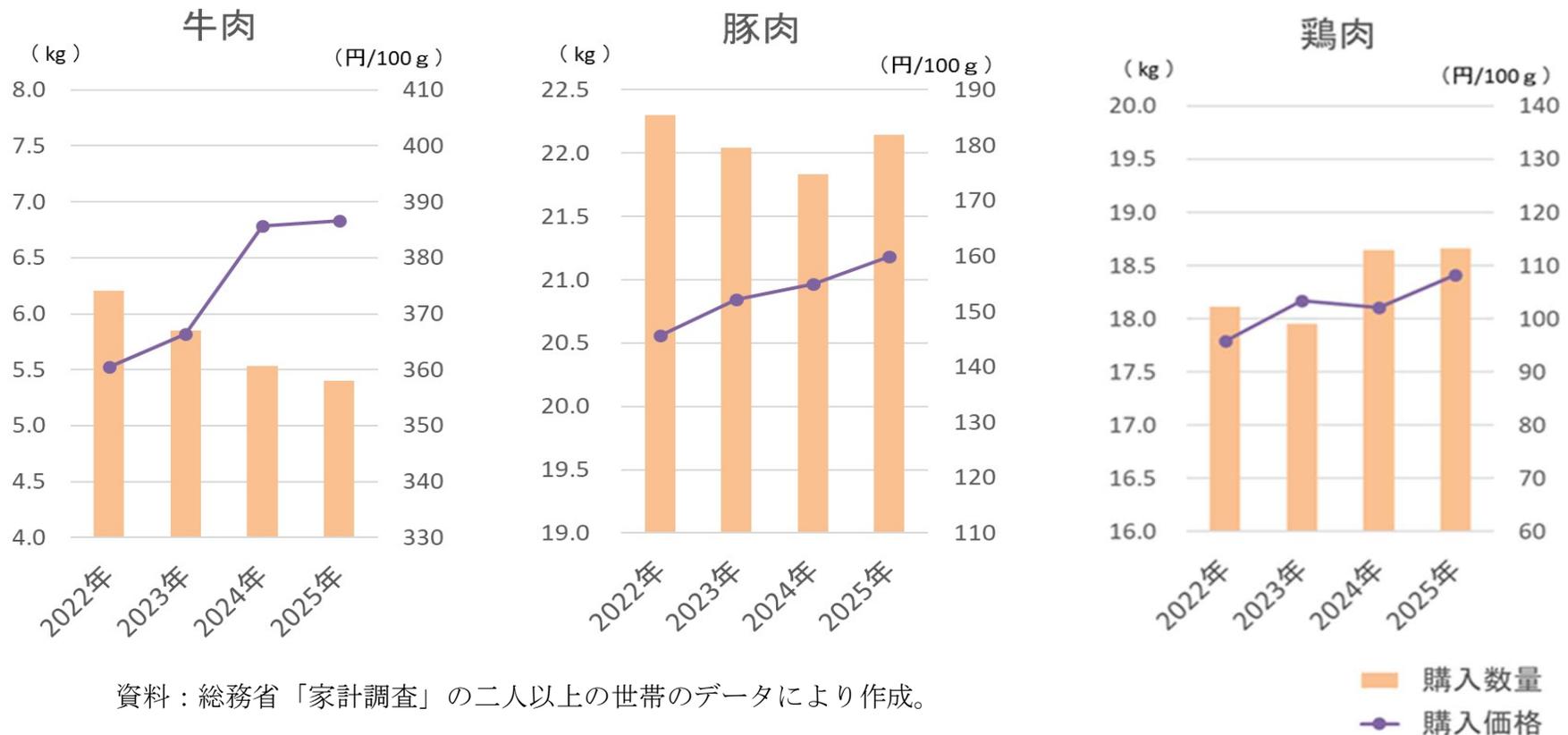


資料：総務省「消費者物価指数」(全国)より作成。  
注：指数は、2020年平均を基準(100)としている。

- 豚肉(国産品)の価格は、食料と同様に上昇し2025年12月の指数は127.7と食肉の中で最も高い水準。
- 牛肉(国産品)の価格も上昇傾向となるが、他の食肉より緩やかな上昇となっており、2025年12月の指数は115.7となり、食肉の中で最も低い水準。
- 鶏肉は他の食肉と異なり2023年10月頃から緩やかな低下に転じたものの、その後再び上昇し2025年12月の指数は122.4となった。

## 8 家計消費の動向

図8 食肉の購入数量・購入価格



- 物価上昇による消費者の生活防衛意識の高まりにより、比較的高価な牛肉の購入数量は減少傾向。
- いずれの食肉も購入価格は上昇しているが、より安価な牛肉→豚肉→鶏肉に購入がシフトしている傾向が続く。

## 8 家計消費の動向(つづき)

表1 世帯当たり年間の購入数量, 支出金額及び購入価格

	2022年	2023年	2024年	2025年	2022年比 (2025/2022)
食料支出金額 (円)	982,661	1,038,653	1,079,228	1,138,736	115.9%
生鮮肉					
購入数量 (g)	51,089	50,193	50,350	50,618	99.1%
支出金額 (円)	78,259	79,811	80,658	83,265	106.4%
購入価格 (円/100g)	153	159	160	165	107.4%
牛肉					
購入数量 (g)	6,202	5,853	5,529	5,401	87.1%
支出金額 (円)	22,356	21,449	21,321	20,880	93.4%
購入価格 (円/100g)	360	366	386	387	107.2%
豚肉					
購入数量 (g)	22,297	22,041	21,835	22,142	99.3%
支出金額 (円)	32,487	33,553	33,818	35,416	109.0%
購入価格 (円/100g)	146	152	155	160	109.8%
鶏肉					
購入数量 (g)	18,117	17,949	18,643	18,659	103.0%
支出金額 (円)	17,372	18,558	19,033	20,182	116.2%
購入価格 (円/100g)	96	103	102	108	112.8%

資料：総務省「家計調査」の二人以上の世帯のデータにより作成。

- 豚肉の購入価格は牛肉の4割程度の水準で、購入数量は2024年までは減少していたものの、2025年には増加。
- 鶏肉の購入価格は牛肉の3割弱、豚肉の7割弱の水準で、購入数量は2023年に減少したものの、2024年から増加。
- 2022から2025年までの支出金額の伸びは、鶏肉が最も高く（116.2%）、続いて豚肉（109.0%）となり、牛肉は減少となった（93.4%）。

# 日本食肉流通センターホームページのご案内

○当センターのホームページで、定期的に食肉に関するレポート等を公表。

- ◇最近の食肉をめぐる状況（2026年2月報告） 2月26日公表 **NEW!**
- ◇食肉番付表（2025年） 2月17日公表
- ◇食肉業界の販売動向について（2026年2月報告） 2月4日公表 等

<https://www.piif.jmtc.or.jp/report/>



○部分肉価格情報専門チャンネル

『市況速報』 各地域をクリックしてご覧ください

※表項目の部分肉について、部位ごとの取引価格と取引重量の情報がご覧になれます

項目	公表のサイクル/公表日	地域
豚カット肉「1」	日報（月～金曜）	首都圏 近畿圏
豚カット肉「1」（週間）	週報（火曜）	首都圏 中京圏 近畿圏 九州
和牛チルド「4」	週報（火曜）	首都圏 中京圏 近畿圏 九州
乳牛チルド「2」	週報（水曜）	首都圏 近畿圏 九州
交雑牛チルド「3」	週報（水曜）	首都圏 近畿圏 九州
輸入牛肉	半月報（3日/18日）	首都圏 中京圏 近畿圏 九州
輸入豚肉	半月報（3日/18日）	首都圏 中京圏 近畿圏 九州

<https://www.jmtc.or.jp/>



○牛・豚商業規格書・動画



動画

【牛肉編】



【豚肉編】



<https://www.youtube.com/channel/UCbGkcoZBnqS2yE5RP9vZjHA>

商業規格書

<https://www.piif.jmtc.or.jp/cmkiaku/>